

『クニマス』山梨県西湖で発見

田沢湖から運ばれた卵が繁殖か

昭和15年、国策により玉川の水が田沢湖に導入され、田沢湖だけに生息していたクニマスが、環境の変化により死滅して70年。昨年12月15日、『クニマス、山梨県の西湖で確認!』のビッグニュースが飛び込んできました。

これまでクニマス、田沢湖と関わりの深い、三浦久さんと杉山早人さんに12月16日にお

話しを伺いました。

市では、12月中旬に、クニマスと確認した京都大学の中坊徹次教授らを訪問して、確認のお礼に伺ったほか、山梨県の富士河口湖町の西湖などを訪れました。(詳細は、次号で紹介の予定です)



クニマスの卵を送ったという資料など

クニマスを探し続け、卵が送られていたという富士五湖などを訪れていた故三浦久兵衛さん(平成18年、84歳で死去)の長男久さんは、クニマス生存の知らせを聞いて「父親も晩年はあきらめていたので本当にはびつくりしました。父は富士五湖を5回ぐらいいは訪れていると思います。私も一度同行していますが、今回クニマスが見つかった西湖には残念ながら行っていません」と、話を

クニマスが帰ってこられる田沢湖に



三浦 久さん
(濁字ヨテコ沢)

伺っている間にも問い合わせの電話などで大忙し。「今年、田沢湖に玉川の酸性水導入から70年の節目の年でした。さらに、6月にはみんなで作製した丸木舟を田沢湖に浮かべました。その舟の名前も『クニマス』と命名し、そして年末にはクニマス発見の大ニュースと、何か因縁のようなものを感じます。今後は、できるだけ早く本栖湖、西湖を訪れ、実物のクニマスを見てみたいですね。また、西湖の漁協の組合長さんとお会いしてお礼を言いたいと思っています」

最後に、三浦さんは「人間が壊してしまった環境をできるだけ早く人間の力で作り直して、クニマスが田沢湖に戻って来られるような環境にして行く活動をしていかなければならない」と話してくれました。

歴史や環境を大切に にする観光地に



杉山早人さん
(生保内字造道)

表紙に登場した杉山さんは、工房「北の仲間たち」を主宰。手にとってほっとするような土鈴を中心に作品づくりに励んでいます。

また、田沢湖に生命を育む会の事務局長として田沢湖を玉川の酸性水を導入する前の湖にしようとして活動を続けています。

今回のクニマス発見のニュースを聞いて、『「ヤッター」という感じですね。可能性のあることはあきらめてはいけないということを実感しました。奇跡的なことが起こったという感じですね。これまで先人が頑張ってきたことが報われたということですね」と、興奮気味に一気に話してくれました。

「行政には、国県および関係機関との調整はもちろんです

が、外からの協力が得られるような体制づくりを期待します。また、田沢湖の歴史、環境などを説明する施設として、現在の郷土史料館の充実が必要だと考えています」と市への要望も。

「歴史や環境を大切にする地域は観光地として魅力のあるところになると思います。田沢湖にクニマスが戻ってくるにはまだまだ時間がかかると思いますが、それまでに水槽に入れて展示できるように施設が必要ではないでしょうか。市民の役割としては、常に田沢湖に注目させるような仕掛けづくりが必要です」と今後の活動について話してくれました。